

伊実日和

令和4年11月8日11号

伊万里実業高等学校



商業CP、商業科主任

永石 浩之

私は、伊万里商業高校に平成11年から平成22年まで11年間勤務していました。12年ぶりの校舎を懐かしく感じるとともに、2つの高校（商業と農林）が統合された伊万里実業高校の学校規模や雰囲気の変化に、さらなる発展を感じています。

商業科という教科は実学を学ぶ教科であり、目まぐるしい社会の変化に伴い、学ぶ内容も大きく変化してきています。私が教師になったころは、ソロバンやワープロ専用機の授業がありました。また、情報処理の授業内容は、BASICやCOBOLなどのプログラミング学習でしたが、Windowsなどの新しいOSが登場

場し、WordやExcelの実習が取り入れられました。さらに、様々なソフトウェアの学習を授業で取り組むようになりました。もちろん、マーケティングなどの理論科目の内容も大きく変化しています。簿記の連結会計など会社組織の変化に伴うものです。さらに会計法規も変更を繰り返しています。

以前の伊万里商業高校では、商業の実践力を高めるために販売実習に取り組み、文化祭では体育館で「伊商デパート」が行われました。日用雑貨や食料品などを、地元企業と委託販売契約を結び販売していました。特徴的な商品として自動車を販売したこともありました。その後、商店街の空き店舗を活用した「きてみん祭」を全校

で行いました。部活動で「市場調査研究会」を立ち上げ、市からの補助金を活用しながら、空き店舗で週末に販売実習と通行量調査をおこないました。これを

地域活性化の構想と絡めて県生徒商業教育研究発表大会で発表し、最優秀賞を受賞し、函館で開催された全国大会へ出場することが出来ました。みなさんの先輩は、その時代の先進的なことに積極的に取り組んでいました。

最近ではAIの進化に対する雇用問題や、メタバースの出現によるニュービジネスの話題が取り沙汰され、ブロックチェーンやNFTなど、それに関連する仕組みも構築されています。やり方によっては、非常に夢や希望が持てる時代になって

いる反面、活用していくためには、正しい知識を得て正確な情報を見極める必要があります。

「不易と流行」という言葉があります。この言葉は、いつまでも変化しない本質的なものを忘れない中にも、新しく変化を重ねていくものを取り入れていくという意味です。私は

商業科の不易の部分として、資格取得や礼節、ビジネスの創造が根幹にあると思います。みなさんには、高校時代に情報を見極めるための根幹をしつかり学び、実社会で活躍していただきたいと思います。



課題研究

商業デザインコース

ビジネスデザインを学ぶ『商業デザインコース』では、2学期より外部講師の株式会社いまココ代表取締役の井手広法様を迎え、映像作品の制作に取り組んでいます。「伊万里」と「伊万里実業」をPRする内容で、どんな映像作品を作ることが効果的かを話し合い、アイデアを出し合いながら考察してきました。プロの視点からのアドバイスを頂き、今回のシナリオが完成し、撮影を10月25日・26日に終えたところです。井手様をはじめ、ご協力いただいた方々に感謝申し上げます。

競争の狩り恋



